

編集者：東災ボTimes 編集委員会  
編集長：生原 勇  
発行人：上原 泰男  
連絡先：東京災害ボランティアネットワーク  
〒164-0011 東京都中野区中央 5-41-18  
東京都生協連会館 3F  
☎03-3380-1614 fax03-3380-1615  
E-mail:office@tosaibo.net

# 東災ボTimes

いのちをつなぐネットワーク紙

平成23年(2011年)5月31日(火)  
東京災害ボランティアネットワーク

東日本大震災特別号No.3



## 笑顔弾けるふれあいのひろば



号数下の写真は登米市米山町のチューリップ畑。中央の写真は18日の平筒沼 youyou 館での晴天の下での食事会。日差しはきつかったものの、吹きわたる風はひんやりと心地よかった。孫娘のような赤帽さんと話に花が咲く。上の写真は8期メンバー、どの期もそうだが、初日はみなさん緊張気味。彼らの向いにはちょっとふてぶてしくなった7期メンバーが楽しそうに後輩を観察しています。

先週は第8期のメンバーが活動。8期はメンバーが少なく、人のやりくりが苦心惨憺。しかし、ボランティアは工夫することが大切だし、現場での臨機応変が真骨頂だ。

5月22日(雨)、志津川中避難所支援の3名の主な仕事はトイレの水の補充など。この日は、救援物資のフリーマーケットや吉本芸人の慰問なども。避難所のパーティションは夏場に向けて風通しの悪さなども問題になりそう。蚊取り線香なども必要となるだろう。

志津川高避難所支援の3人は、避難所内に設置されるカフェの準備などを手伝う。仕切りのところに表札をとの提案がなされた。また、楽天イーグルスのチアリーダーによるリラククス体操が披露された。

ベイサイドアリーナで活動した4人は旧入谷中での写真展示会の準備に忙殺。来訪者が見やすいようにと様々な工夫をこらす。

ふれあい食事会は9人で活動。この日は登米公民館・武道館での食事会。公民館の調理室をお借りしてのシチュー作り、食堂では焼きそばとフルーツヨーグルト。それぞれ100食を用意。シチューも焼きそばも大評判。ふれあい食事会では、避難されている方同士の交流、赤帽子との交流も大事。ただの炊き出しではなく、交流も大切にしたい食事会となっている。

南三陸町における避難所一覧と避難者数 (宮城県対策本部調べ：平成 23 年 5 月 25 日現在)

南三陸町	ベイサイドアリーナ	志津川字沼田56番地	308
南三陸町	沼田	志津川字沼田	78
南三陸町	沼田倉庫	志津川字沼田	130
南三陸町	大森	志津川字大森	59
南三陸町	志津川小学校	志津川字城場41	101
南三陸町	志津川中学校	志津川字助作11	62
南三陸町	志津川高校	志津川字廻館922	110
南三陸町	ハイムメアーズ	志津川字袖浜255	42
南三陸町	憩いのうみ・あらと	志津川字蒲の沢 1901	120
南三陸町	細浦	志津川字細浦2311	200
南三陸町	田尻畑	志津川字田尻畑	37
南三陸町	保呂毛	志津川字上保呂毛or下保呂毛	38
南三陸町	大久保民家等	本吉郡南三陸町志津川字大久保 2281	40
南三陸町	大上坊	本吉郡南三陸町志津川字大上坊56	75
南三陸町	林生活センター	志津川字林87-1	2
南三陸町	マリナル	志津川字黒崎99-17	80
南三陸町	大雄寺	志津川字田尻畑101	30
南三陸町	旭ヶ丘コミュニティ等	志津川字廻館1573	147
南三陸町	袖浜	志津川字袖浜	50
南三陸町	水戸辺在郷	戸倉字水戸辺985	3
南三陸町	荒町生活センター	戸倉字町272	70
南三陸町	自然の家	戸倉字坂本88-1	56
南三陸町	津の宮生活センター	戸倉字津の宮51	29
南三陸町	長清水荘	戸倉長清水30-1	18
南三陸町	滝浜お寺	戸倉字滝浜90	0
南三陸町	藤浜	戸倉地区	9
南三陸町	寺浜生活センター	戸倉字寺浜93	27
南三陸町	入谷小学校	入谷字童子下1932	57
南三陸町	入谷公民館	入谷字水口沢123	36
南三陸町	入谷地区民家	志津川字入谷	418
南三陸町	歌津中学校	歌津字伊里前123	200
南三陸町	歌津デイサービスセンター	歌津字柘沢28-1	30
南三陸町	平成の森	歌津字柘沢28	193
南三陸町	名足保育園	歌津字中山91	117
南三陸町	馬場中山生活センター	歌津字馬場852	148
南三陸町	大磯カネサン	歌津地区	14
南三陸町	泊浜	歌津字番所763	107
南三陸町	石浜集会所	歌津字石浜992	37
南三陸町	港親義会館	歌津字中野9110	35
南三陸町	館浜・稲渚	歌津字館浜	173
南三陸町	寄木民家／三浦義昭	歌津字町向67-2	27
南三陸町	菰の浜荘	歌津字平松64□1	28
南三陸町	活性化センターいずみ	歌津字吉野沢65 3	67
南三陸町	http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/		3,608

南三陸町

町内外の施設に4000名超

きびしい環境に耐える人々

左表は、5月25日現在の南三陸町における避難所一覧と避難者数となっているが、実情と少し誤差もある。3面に掲載している登

米市内11カ所に避難する南三陸町の方々を含めると、概ね4244名が、いまだに厳しい環境の中の生活を強いられている。南三陸町の場合、ほ

ぼ全域で断水。自炊の困難もさることながら、風呂が使えないため、妊婦さんや赤ん坊はとりわけ夏場に向けて様々な感染症の発生も考えられる。

南三陸町における東災ポの活動

志津川中避難所

真言宗のお坊さんたちによる炊き出し (メニューはコロッケ)、大道芸人の慰問があった。僕たちは、掃除や子供の相手をしていました。

5月25日から自衛隊の炊き出しがご飯と味噌汁のみとなり、おかずがなくなる。物資は運営体制が変わり、これまでのように自由に持ち出しすることができなくなるよう。自炊のための調理プレハブがたつ予定だが、未定である。(24日報告会より)

志津川高避難所

自衛隊の交代式。被災者同士が寄り添えるカフェがオープン。他の避難所の方にも参加してもらったためポスターをはらせてもらった。

子供の遊び場ができたが、保護者のつきそいが必要。ボランティアでカバーしてほしいといわれた。

なお、メンバーで体調不良の方がいたので、2名の派遣となった。(24日報告会より)

ベイサイドアリーナ

30名ほどのボランティアがいたが、13名が経験者であった。5月28日の展示会にむけた準備を行った。食事や衛生面の改善について、他のボランティアさんにもうがい用の水を使ってもらい喜んでもらった。28日の展示会の案内は9時からとなっているが、ボランティアの受付も9時となっていることから調整が必要。当日にむけてのボランティアが足りないと思う。

(24日報告会より)

南三陸町被災者の登米市内各施設における人数及び出身地区人数内訳

避難所施設名	避難者数	地区内訳			
旧善王寺小学校 (※)	46名	戸倉 43名	歌津 3名		46
登米公民館和室 (※)	26名	戸倉 17名	歌津 1名	志津川 8名	177
登米公民館大集会室 (※)	92名	戸倉 91名	志津川 1名		
登米武道館 (※)	59名	戸倉 59名			
豊里多目的研修センター (※)	53名	戸倉 35名	志津川 18名		53
津山若者総合体育館	131名	戸倉 102名	志津川 25名	歌津 4名	131
旧嵯峨立小学校	36名	志津川 31名	戸倉 5名		36
旧鱒淵小学校	112名	志津川 110名	不明 2名		112
及基と源氏ボタル交流館	17名	志津川 14名	戸倉 2名	歌津 1名	17
東和国際交流センター	9名	歌津 6名	志津川 3名		9
迫ふるさと交流館 (※)	35名	志津川 26名	歌津 7名	戸倉 2名	35
平筒沼 youyou 館 (※)	20名	志津川 16名	戸倉 4名		20
総計					636

登米市役所平成 23 年 5 月 16 日現在データをもとに東災ボ登米事務局作成

登米市内 11カ所の避難所には 636名の南三陸町の人たちが生活しておられます。登米の町も被災地ですが、人々はおつとりとやさしく隣町の人々を支えておられます。東災ボは現在 7カ所(※)でふれあい食事を提供させて頂いております。

## ふれあい食事会日誌

日時	避難施設名	メニュー	食数 (参加者数)	ボランティア	備考
5/22 日	登米公民館・武道館 雨のちくもり	焼きそば・シチュー・フルーツヨーグルト	100食 実参加者数 86名	8期+居残り 2名 = 9名 (新規ボラ: 4名)	前日からの仕込みが奏功し準備もスムーズ。
5/24 火	迫ふるさと交流館 くもりのち晴れ	同上	約 30食	8期 4名 事務局 3名	初めてのところだったが、和気藹藹。外での食事の後は、撮影会に早変わり。
5/25 水	平筒沼 youyou 館 晴れ	同上	約 20名が参加	8期ボラ 3名、事務局 3名 (登米市社協の菅原さんがボランティア参加)	晴れたので外でのお食事も。日差しがきつくテントを張る。ブルーシートの青に遺体片付けの記憶が蘇るといった被災者の声も。
5/26 木	豊里多目的研修センター 晴れ、陽射し強し	同上	約 40名参加 焼きそば 51食	8期ボラ 3名 事務局 3名	仮設に全く当たらない人と、当たった人が共に住んでいる。フラストレーションを感じた。
5/27 金	津山若者総合体育館 晴れ	お好み焼き・肉うどん・フルーツヨーグルト	約 60名 (補助員 5名含む) 参加	8期ボラ 2名 事務局 4名	働きに出ている男性が多く、当初予定の 100名を下回る。お好み焼きのお土産を置いて帰った。
5/28 土	旧善王寺小学校 雨ときどきくもり	焼きそば・クリームシチュー・フルーツヨーグルト	約 30名参加	8期ボラ 2名 事務局 5名	避難所の男性は晴れたら、南三陸町での瓦礫撤去の仕事だが、雨の日は違う。この避難所から自力帰宅第一号が出た。
5/29 日	津山若者総合体育館 雨	ラーメン東京風・半チャーハン・ブルーベリーヨーグルト風	約 80食	9期ボラ 6名 事務局 3名	ラーメン・半チャーハンとも初挑戦も、ボランティアの連携・リズムともよく、意外とスムーズにいった。ラーメンのゆで時間とスープに一工夫の必要あり。
5/30 月	迫ふるさと交流館 風雨強し	同上	約 30食	9期ボラ 6名、事務局 4名	距離のとり方を考えさせられた 1日だった。楽しかっただけに……。

5月1日から開始した「ふれあい食事会」云々。南三陸町から登米市に避難してきた方々がおられる避難所での実施となっている。

南三陸町から登米市に避難してきた方々は、ある意味で恵まれた環境であり、またある意味では厳しい環境であるといえる。登米市は震災の被害はそれほど大きくはなかった。倒壊した家屋はあるし、被災された方の心情としては、被害の大小はあまり関係ないといえる。それでも、電気・水道・電話・ガスなどのいわゆるライフラインに大きな被害はなかったし、生活する上で必要店舗などは普通に営業している。

被災まもなくの3月後半に登米市内の学校に避難してきた方々の話の中でも、「わたしらは恵まれた環境の中に避難させてもらっている」という声が聞かれた。しかし、その一方で、南三陸町の自宅からわずか30〜40分という場所にも関わらず、なかなか南三陸町の情報が入ってこないという現状も。

さらに、これまで避難している方々自身で用意していた食事も、仮設住宅への入居が決まった、仕事が再開したなどの理由で特定の方に負担がかかり始めている。登米市も調理補助員という方を各避難所に配置して支援をおこなっているが、それだけでは心もとなりが現状だ。

そんな中、東災ボは、各避難所に週1回の割合での食事を開催を実施している。食事会時には、ほんの少しでも食事準備からの解放をしていただき、明るく元気な食事会をとメニューなども工夫がけしている。

食事会開始から1ヶ月が経ったが、どの避難所でも「次のメニューは何かな」と聞かれることも増え、かなり浸透してきている。

東災ボはこの食事会を通じて被災者の方々と交流を深め、次の仮設住宅支援につなげていきたいと考えている。ここで培われる信頼関係を基に、より人に寄り添う支援をしていきたい。多くの方々の、引き続きのご支援をお願いいたします。

# 赤帽6期～8期を振り返って

## 南三陸町での支援

第一期(4月2日～9日)、第二期(同9日～16日)は、ボランティア宿泊拠点の環境整備やボランティア活動のプログラム作り、続く第三期(16日～23日)、第四期(23日～30日)、そして第五期(30日～5月7日)は助走期として地域におけるさらなる信頼関係の構築ならびに関係NPOやNGOなどとの連携の強化を進めるとともに、東災ポとしての独自かつ本格的なプログラム(ふれあい食事会)へと一歩踏み出した。

第六期(同7日～14日)はちょうど南三陸町における避難所の再編時期(その経緯と内容は前号参照)と重なった。この期の特徴は、五期において始めたふれあい食事会を本格的に定着させるため、行政担当者との打ち合わせ、食事会を実施する新たな避難所の開拓などに注力する一方、従来から継続している南三陸町における志津川中学、志津川高校、ベイサイドアリーナの災害ボラセンとの連携に努めた。アリーナ組は、新学期に向けて入谷小における各教室から同小体育館への避難者の引っ越しに伴う校内各所の清掃や大型冷蔵庫や支援物資の仕分けを伴う移動を行った。実に沢山の力仕事を東京

からの4人組ボラ及び同小PTA・先生・避難者との連携プレーで実に楽しく行う事ができた。翌日は避難所を閉じた志津川小の後片付けや図書書の整理、トイレの水の補給を行ったが、ボランティアへの指示が混線する場面もあった。3日目以降は「思い出探し隊」という写真やアルバムを洗浄の作業に入っていた。この作業はそれ以前からの継続でもあり、七期へと受け継がれていくが、七期中より5月28日からの写真の展示に向けて展示会場となる旧入谷中の環境整備に関わる事になった。八期は写真洗浄の仕事はなく通期で展示会の写真貼り付けや企画に携わる事になった。

志津中・志津高にはそれぞれ3名の赤帽が入った。トイレの水の補給、トイレ掃除、ストーブの灯油の給油、物資の仕分け、不登校生の対応、勉強が遅れている子供たちへの寺子屋活動、お年寄りの話し相手や散歩の同行など、学校の迎えなど、実に様々な仕事を、全体会議やボランティア会議(主に志津高)にかかわりつつも仕事を見つけた。この二つの避難所における仕事は六期～八期のボランティアにとつては、避難所の再編、避難所の閉鎖そして一部仮設

への移行という「変化」の中にあつて、避難所リーダーと行政との間の軋轢がみられたりするなど、やや気を使う場面もあった。しかし、総じて中高に入ったボランティアは遺憾なくその個性を発揮して、子供たちやおばあちゃんのアイドルになったり、最終日に特技のダンスをみんなの前で披露して拍手喝采を浴びた赤帽もいた。

## ふれあい食事会

七期八期においては、登米市内の避難所7カ所における「ふれあい食事会」を本格的に展開することになった。登米市は市内11カ所の避難所に対し、調理補助員を配置するなどして、避難所における御婦人がたの負担を軽減する方策を打ち出した。これは一方で被災者の雇用促進の側面もあった。これにより避難所がやや安定し、登米市行政との連携が進む中で7カ所の避難所における「ふれあい食事会」は定着していった。ここで、改めて「ふれあい食事会」の位置付けについて言及しておく。ややイベント型に近い食事会にはちがいないが、炊き出しとは違ふ、ボランティアと被災者が共に食すること、そしてふれあうこと、そばに寄り添うこと、などを強く意識したプログラ

ムといえる。そして、このプログラムは次へのステップでもあると考えている。いみじくも、避難所のリーダーが「仮設に入ってから頼みますよ。仮設に入ってからがたいへんだ」と言ったように、仮設入居後の困難が多く被災者に不安を抱かせている。避難所の集団生活から仮設住宅の孤立生活への移行の中で、これまでもわれわれは多くの孤独死や自死を突き付けられてきた。

登米市においては、すでに津山町横山地区の59戸の仮設での生活が始まっている。南方町には200戸の新規の仮設が建設中であり6月中旬以降には入居が始まる予定だ。東災ポは、これらの仮設住宅における人々の生活を全力で支えていく覚悟でいる。



写真上:ふれあい食事会のひとコマ。焼きそばは食事会では大人気だった 写真下:建設中の仮設住宅。登米市内には今のところ2カ所に合わせて数百戸単位の仮設住宅が建設予定となっている

## 編集後記

4月2日からボランティアの募集をおこない、これまでに9週間にわたって多くの団体の方々のご協力を得てボランティア派遣がおこなわれています。

4月中は南三陸町内での避難所支援や災害V.Cでの活動が多かったのですが、5月からはボランティアの宿泊拠点を置かせてもらっている登米市での活動も本格化してきました。その第一弾が、「ふれあい食事会」。いわゆる「炊き出し」ではなく、あくまでも「食事会」。ここにちよつとしたこだわりがあつたりします。

食べ物を提供するというよりも、楽しみを提供するでもいえるでしょうか。単純な食事当番の肩代わりではなく、ほんの少しでも楽しめて、できれば交流できる場を提供していきたいと思つています。

これから被災者の方々は避難所から仮設住宅へと、数度目かの引越しが待っています。登米市に避難してきた方の中でも、南三陸町内の仮設住宅へ移られる方と、登米市内の仮設住宅へ移られる方がおられます。避難所で仲良くなった方との別れもあるでしょう。これまでの被災地で幾度も指摘されてきた「コミュニティの大切さ」を少しでも被災者の方々と一緒に共有していければと思つています。

東災ポの被災者支援活動は被災者に寄り添えるようになつていきたいと思います。